

---

# 南丘学園「プラチナ」

亜矢那

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

南丘学園「プラチナ」

### 【Nコード】

N1864I

### 【作者名】

亜矢那

### 【あらすじ】

ふつ々の中学にはいった瑠璃亜。  
しかし南丘学園には変な校則があった…  
生徒会に入る方法とは？  
そして生徒会とはいったいなに？？  
おかしい学校での物語！！

## プロローグ

「じぎげんよう」

「じぎげんよう」・・・

なにここ・・・ありえないよお・・・

金持ちが来る学校みたいじゃん…

## 第1章 学園の校則

私は瑠璃亜。

ごくごく普通の中学生…になる予定だった。

ふつうに近くにあった中学の南丘学園に受験して入学した。・・・  
のだが

南丘学園はとてつもなく大きく不思議な学校だった！！

校則はいくつもある

そのなかでもとくに瑠璃亜の中で不思議に思った校則があった。

中学校予習テスト 中間テスト 期末テスト 学年末テストで1位、  
2位をとったものを

エリートのためのエリート集団 「プラチナ」に任命する！！

は??何これ?? しかもつづきがある・・・

3位から10位のを「ゴールド」

11位から50位までを「シルバー」

51から100位までを「グラス」

101位以下を「アクリル」に任命する。

プラチナが一番上でアクリルがしたの級である

・・・成績が影響するのかよ…

瑠璃亜はそう思った。

詳しくはプラチナになったものに説明する  
そう書いてあった。

## 第1章 学園の校則（後書き）

変な話になると思います><

## 第2章 テストへ…

「瑠璃亜〜！！いたいたあ・・・もお・・・さがしたんだからっ！！」

この子は亜理紗。いつしよに子の南丘学園に入学した私の親友。私は亜理紗にこの校則のことを聞いてみることにした。

「亜理紗・・・この校則しってる??」

「えっ！！瑠璃亜しらないの??」

ありさはしつていたみたいだ。

「プラチナは…素敵な位なんだよ！！だって・・・なんでも願いがかなうんだから！！」

「どういうこと?」

「プラチナは3年生と同じ権力があつて、本人に許された人以外はプラチナに対して敬語 様づけで呼ばなきゃいけないんだよ。

1年生から3年生まで。しかも・・・金持ちになれるの。

豪邸に住めるし・・・とにかくやばいの!!」

「うっそ〜あこがれじゃん!!」

亜理紗はことばを続けた。

「で・・・プラチナは制服にネクタイをつけておっけーで

紺ソックスにローファーはいてもいいんだって!!しかもカバンにキーホルダーつけ放題。」

ありえねー・・・ 瑠璃亜の独り言 笑

「ほかの人たちは自分の位より上の人に敬語を使って様づけなの。それでランクごとに制服も違ってすぐわかるんだって!!」

「すっごい・・・ね・・・。でも1位なんて…」

謙遜してみたら

「瑠璃亜ならいけるんじゃない?？」  
「そう言われた。むりい・・・」

でも、あこがれだなあ・・・

そんなことを考えているうちに教室に着いた。

果てしなく大きい…学校だから教室に行くのも一苦労。

「みなさんはじめまして。担任の染川大地です。さっそくですが中  
学校の勉強を

どれぐらいしているかテストします。なお1位2位になったものは

「プラチナ」となります・・・」

教室は騒然となった。

「ねらおう・・・」

瑠璃亜はそう心の中で決めた。

### 第3章 結果発表

テストは難しかった。

果てしなく難しかった。

1位なんて取れたかどうかわからないくらいに。

担任が入ってきた。

「じゃあ皆さんお待ちかねの結果発表をします。  
1位は……」

向井沢 瑠璃亜!!!」

今……よばれた??

いやいや……そんなわけ……

「向井沢!!!立て!!!」

「はっ……はい!!!」

「2位は……」

境川原 勇気!!!」

「はい。」

落ち着いた声が聞こえた。  
しかも男……

「二人は今日から「プラチナ」だ。」



うそお・・・

でもまだ私はプラチナがどんな役職なのかをまだしらなかつた・・・

### 第3章 結果発表（後書き）

短くてすみません…

## 第4章 説明 プラチナとはいったい??

「では向井沢様 境川原様 こちらへ・・・」

は??様??先生が生徒に対して様ずけ??

「今から説明をつけていただきます。プラチナ専用ルームへご案内します。」

そんなのあるのかよ・・・

クラスメイトが驚愕した目で見つめている。

まさかクラスで2人もプラチナが出るなんて...

亜理紗はぼかんと口をあけて私を見ている...

私はなんだかクラスから浮いてしまったような気がした...

「ようこそ。新プラチナ!!」

プラチナ専用ルームという部屋に入った瞬間そんな声が聞こえてきた。

部屋を見て驚愕した。

豪華だ...豪華すぎる。

なんだか金持ちの家みたいだ・・・。

「はじめまして。瑠璃亜さん 勇氣君。」

きれいな女の人が話しかけてきた。

「私はプラチナ生徒会長 白川 綾乃。」

あなたたちにプラチナ生徒会について知ってもらおうと思います。」

もうわけがわからない・・・

それにとりにいるこの男 勇氣とか言うやつ、

さつきから全然しゃべらないし…

「制度なら知っています。」

うわぁ！！勇気とか言うやつがしゃべった！！

「なら話は早い。瑠璃亜は？」

とつぜん話しかけられてしどろもどろになる

「えっ・・・まあ・・・知っています・・・」

「私たちはエリートの中のエリート。権限は先生よりも上。

学年に2人ずついます。先輩とか関係なく呼び捨てでいいから。

さつきいったとおり私は 綾乃。

そこにいるのは副会長の 田原 祐司 祐司って呼べばいいから。

あと・・・あそこにいるのは2年の桃木 友香と菊川 茜。

「よろしく」

全員が挨拶をしてくれた。

「あつよろしくお願いします。」

だめだ・・・この雰囲気…

ついていけない・・・

「さてと・・・お金の話をしようか？」

お金の話って何ー！！！！？？？？

第4章 説明 プラチナとはいったい?? (後書き)

わけわかない話ですいません。

**第5章 プラチナはお金持ち?? (前書き)**

投稿遅くなりました><

## 第5章 プラチナはお金持ち??

「お金の話かあ…いいですね^^」

みんなのりきだし!!

「じゃあプラチナがどれくらいお金もちなのかを新プラチナに説明しよう。プラチナになったあなたたちは豪邸に住める。

学校からのプレゼントでありお金も何億といった単位でもらえる。

今日からまあお嬢様 おぼっちゃま暮しということになる。」

生徒会長の綾乃はそういった。

「ちょっと待ってください…っていうことは…大富豪ということですか?」

「そう」

え~~~~~!!!まじで!?(心中・・・ww

「前も言った通りプラチナは自由。制服もネクタイ使用可だし。生徒より権限も上。」

私はゴールドやシルバーについて聞いてみることにした。

「じゃあゴールドやシルバー、グラス級のひとはいったい??」

「そのほかの級は敬語を使うか使わないかの違い。

ゴールドはリボン シルバーは細い紐リボン グラスは何もなし

アクリルは…アクリル用の

校則があつて・・・外見がみんな位でそれぞれ違う。でも私たちは一番上なので

ふつうに過ごしていれば大丈夫。

なにか気に入らない人がいたりすれば罰することも可能。  
そのため私たちは少し恐れられてるんだ。」

なんだか面倒くさいなあ・・・

そう感じた。

隣にいる勇氣はなんだか楽しそうに話を聞いている。

こいつ・・・只者ではないかも...

瑠璃亜はそう思った。

瑠璃亜の勘は当たっていた。



第5章 プラチナはお金持ち?? (後書き)

次回は勇気という男子の秘密に迫ります!! W

## 第6章 勇気という人物

とりあえずその日はここで下校になった。

亜理紗が私に話しかけてきた。

「あの・・・瑠璃亜様??」

「えっ??」

まさか亜理紗が自分に様をつけてくるなんて思わなかった。

「亜理紗、いいよ。様なんてつけなくて。

いつも通りで。敬語じゃなくてもいいし。」

「本当にいいの?」

亜理紗が問いかけてきた。

「いいんだよ。」

私はそう返事をした。

亜理紗はこう言った。

「瑠璃亜が何か遠い存在に感じられたの。

あのあと担任がプラチナの偉大さについていっぱいしゃべってて。

」

あのやろう…まったく。

「大丈夫だよ。うちらは親友なんだから!!うちが許せばOKなん

でしょ?」

「うん。」

話はもう一人のプラチナ「勇気」の話になった。

「瑠璃亜。勇気様について何か知ってる?」

亜理紗に聞かれた。当然私は知らないの

「ううん・・・知らないの。」

そう答えた。

「瑠璃亜…勇氣様の秘密探ってくれない？

あのひとどこからきているかとか家族構成とかなぞなんだって。

実は大金持ちの家の御曹司っていうわさも・・・

あつ瑠璃亜も今はそういうお嬢様だけど…」

そう頼まれたら私も知りたくなってきた。

「うちも知りたいから・・・探ってみるね^^」

亜理紗と約束をした。

第6章 勇気という人物（後書き）

つぎはついに・・・???

## 第7章 プラチナとして

プラチナってそんな高い役職だったとは…

これはすぐにわかった。

お金がもらえたりするのはびっくりだったけど

何より周りの生徒たちの反応が違う。

私を通るとみんなが場所をあける。

なんだか…気持ち悪い。

こういうのは苦手だ。

そんななか私は勇気を探していた。

でも…見つからない。

もう授業は終わっているから…帰ったのだろうか？

そう考えてあきらめ自分も帰ろうとしたそのとき。

「向井沢？」

誰かに呼ばれる。

私に普通に話しかけてくる人って…

勇気だった。

っていうか私。普通に勇気って呼び捨て…

「あ…・・・境河原君…？」

とっさに名字で返事をした。

「向井沢瑠璃亜だよな。

俺ら寮らしいぞ。」

は…？…？

「豪邸は豪邸だけど寮なんだとさ。  
プラチナの俺ら専用の寮。ものすごい広いらしいぞ。  
で、お前を今探してた。」

「あ…そうだったの？ごめん。」

「いや…別にいいけど。行こうぜ。」

「…うん。」

私は勇気と一緒に歩き始めた。

私は寮の場所が分からないから

勇気があるいて行くままに歩いてついていってる。

「あの…境河原君？」

「あ？いいよ勇気で。名字長いし。」

「あ…わかった。わたしも名字長いから別に名前でもいいからね？  
あの…さ。突然聞いて失礼だけど勇気ってどこかのお金持ち  
の息子？」  
勇気は少し黙った。

「まあ…な。一応。境河原家が持つてる会社の御曹司。」  
「一応どころじゃないじゃん！」

「境河原家が持つてる会社って…あの有名な…」

「そう。ファッション業界でまあ有名なTHOKO・KYANDA  
Yの。」

え……〜

「あれ……めっちゃ可愛いつえに高い…あのKYANDAY!？」

「ああ。」

こいつ平然とした顔で…

「お前は？見たとこ外部受験だろ？」

「ここ、幼稚舎からあるんだよ。俺はずっとここに通ってる。外部受験ってことは…やっぱり普通の？」

「うん…。普通の会社員の娘だよ。」

「ふーん…ここちょっと金持ち多いけどすぐ慣れると思うから。意外とやさしい…。」

「……うん。ありがと。」

そうこうしているうちに寮へ着いていた。

## 第7章 プラチナとして（後書き）

更新遅くなって本当にごめんなさい><  
読んでる方そんなにいないと思うんですけど  
また是非読んでください><



## 第8章 金持ちの考え方

広い庭を潜り抜けた先に寮はあった。

・・・お城？！

庶民の私にはそんな風に見えた。  
絶句している私を見て勇氣は笑った。

「お前：顔がおもしれー！！」  
勇氣：あんたつてやつは・・・

「しょーがないじゃん！！家は超普通のマンションなんだもん！！」  
憤慨した。

「悪い悪い。まあこの世界ではこれが普通だから。  
プラチナになった以上学校を背負っていくわけだし。  
まあテストですつと1位をとり続けることが重要だけだな。  
じゃ、入ろうぜ。」

私たちは寮の玄関へ入った。

寮とは思えない内装。

高そうなシャンデリア。  
ピカピカの床。

はじめてみるようなものばかり…  
しかも…靴脱がないんだ…

「行くぞ。最初はプラチナ全体でミーティングがあるらしい。」

「応接室行くか。」

寮に応接室って…

「失礼します…」

「応接室もこれまた豪華だ…」

「全員そろったな。瑠璃亜と勇氣。待ってたよ。」

「じゃあ…寮でのルールを再確認しようか。」

「瑠璃亜と勇氣はよく聞くように。」

「はい。」

「この寮は様々な施設をすべて完備していて

学校にあるもの以外に

テーマパークや大型ショッピングセンターなども完備している。

プラチナ専用なので好きなように利用するように。

友達を連れてくる場合はかならずプラチナと一緒に行動すること。」

「部屋割は一人一部屋。」

「同学年どうし同じ階で隣の部屋になるから。」

「ただ部屋は一応つながってて

鍵であけられるようにはなってるけど

その鍵は2人のうちひとりだけが持っておくように。」

「できれば女子のほうが好ましい。」

「それって…おいw」

「とりあえず説明は以上だが何か質問は？」

勇気が手をあげた。

「勇気。どうぞ。」

「ドアがあるということはお互いの同意があれば  
部屋に2人でいてもよいということですか？」

2人で仕事をするときなどに。」

「うん。それは構わないが大きな仕事の場合は  
仕事室でやったほうがやりやすいと思うから  
うまく使い分けてくれ。」

「わかりました。」

「他に質問は？」  
静まり返る。

「ないよ。だから解散。各自部屋に行くなり見学するなり好きに行  
動してくれ。」  
みんながばらばらと席を立った。

会長ってかっこいいな…

男勝りだけどきれいだし。。。

頼りになるな…

じゃあ部屋にとりあえずはいつてみようかな…

「瑠璃亜！部屋行くか？」

勇気…。

「うん。行くけど…？」

あ…同じ階だよね。いこっか。」

勇気と同じ階…か。

っていうか部屋ひろそう…

私に務まるのかな…

プラチナ…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1864i/>

---

南丘学園「プラチナ」

2010年10月28日07時39分発行